

履 歴 書

2017 年 9 月 22 日 現在



ふりがな		氏 名夏目 金之助 (漱石)
生年月日	1867 年 2 月 9 日生 (生誕 150 年)	
		男性
ふりがな	電話 (Fax)	
生誕地	まだない。	
新宿区喜久井町 (旧牛込馬場下横町)		
ふりがな	墓地	
死亡地	豊島区雑司が谷 霊園	
新宿区早稲田南町 7 番地 (享年 49 歳)		1-1-14

西暦	和暦	主要年譜
1867	慶応 3	名主、夏目小兵衛直克 (54 歳)、妻千枝 (41 歳) の 五男 。生後直ちに里子。直ぐもどる。
1868	明治 1	改めて四谷の名主、塩原昌之助の養子
1874	明治 7	養父の女性問題で実家に戻る。小学校 3 度転向。
1881	明治 14	実母死去。府中一中 (現日比谷高校)、二松学舎 (漢文勉強)。
1883	明治 16	大学受験のため駿河台成立学舎 (英語勉強)。
1890	明治 23	府立一高本科より帝国大学英文科入学 (漢文、英文の二刀流)。
1893	明治 26	同大大学院へ。 学校生活では終始成績抜群 。東京高等師範英語教師
1895	明治 28	高等師範を辞して 四国松山中学赴任 。
1896	明治 29	松山中学より熊本第五高等学校講師。貴族院書記長の娘、鏡子と結婚。
1900	明治 33	現職のまま文部省より英国へ二ヵ年留学命令。
1902	明治 35	学費不足などから神経衰弱、 発狂の噂 。帰国。
1903	明治 36	一高、帝大の英語教師。本郷千駄木に転居。(森鷗外転居跡)
1904	明治 37	一高の生徒、藤村操、華厳の滝に投身自殺。
1907	明治 40	朝日新聞社入社。早稲田南町へ転居。
1909	明治 42	満州、朝鮮旅行記を朝日新聞に連載。
1916	大正 5	辰野隆結婚式参列後に大量吐血して死亡。

西暦	和暦	主要作品歴
1904	明治 37	吾輩は猫である (高浜虚子朗読) 後にホトトギスに刊行。
1906	明治 39	坊ちゃん
1908	明治 41	三四郎
1910	明治 43	それから
1911	明治 44	門
1914	大正 3	こころ、彼岸過ぎ迄

年	月	交友・知人関係
1889	明治 22	漱石の号で正岡子規に漢詩批評を仰ぐ。
1892	明治 25	子規と共に高浜虚子訪問。
1898	明治 31	寺田寅彦 (漱石の熊本時代の教え子) らに俳句伝授
1903	明治 36	帝大前任小泉八雲
1906	明治 39	鈴木三重吉、芥川龍之介、野上八重子

健康状態 生来、神経質で特に胃腸障害が顕著。 1886 年 虫垂炎 1894 年 肺結核 1890 年 急激に厭世主義的神経衰弱 1902 年 派遣先の英国で発狂の噂 1908 年 胃潰瘍悪化、転地療養 1912 年 痔の手術 1916 年 長期療養中決定的大出血で数日後死亡	趣味	
	落語、洋画、洋楽、野球、絵画	
	推定収入 (現在価値) 松山時代 年俸 約 500 万円 帝大時代 年俸 約 3,000 万円	
	配偶者 ※ 鏡子	扶養義務 ※ 二男、四女

心情、思想、墓地情報など
漱石・・・石に口すぎ、流れに枕す。(唐代の故事)
則天去私・・・我執を捨て、諦観にも似た調和的な世界に身を任せること (漱石独自の言葉)
同一墓地内・・・永井荷風 1-1-7、泉鏡花・・・1-1-13、小泉八雲・・・1-1-8
金田一京助・・・1-22-5、東條英樹・・・1-1-12、ジョン万次郎・・・1-15-19
1984 年~2004 年まで 千円札の肖像画